



タレント

高見知佳

私が沖縄へ、家族と共に移り住むようになり、6年目になる。今日まで本当にいろいろな事があった。しかし、今では心中からこう思える、「この地が私の生きる場所」である

沖縄へ来た当初は、1歳になる息子を抱えての、慣れない土地での子育て、そして主婦業。移り住むと決めた時は、気持ちも新たに、この地で頑張つていこうと決意、やる気満々で臨んだ生活であった。しかし、今までとは全く違う環境と暮らしどころ。それに一番寂しかったのが、友人、知人が近くに居なかつたことである。そんなこともあって、私の心の中に少しずつ、寂しさと疲れが顔を出すようになり、頑張れば頑張る

ほど、元気がなくなつてしまつたのである。

そんな時、この私に優しく声をかけ、心と体をそっと包んでくれたのが、沖縄の風だった。息子が眠つた後、庭に出て風に吹かれているだけで、何故だか心が落ち着き、ゆつくり深呼吸ができた。私の心の寂しさが、心と体をそっと包んでくれたのが、沖縄の風だった。息子が眠つた後、庭に出て風に吹かれているだけで、何故だか心が落ち着き、ゆつ

さ、不安、育児へのイライラさえも、優しく吹き飛ばしてくれたのだ。それに、明日への力もプレゼントしてくれた。沖縄での暮らしにも慣れ、6年の月日が経とうとしている今で、『風』は私の心に声をかけてくれている。「大丈夫、大丈夫」、「頑張れ」、「泣いてもいいよ」、「さあ、笑って」。

島を駆け抜ける風は、言葉だけじゃなく、季節も知らせてくれる。夏の風は、近くの公民館から、エイサーの太鼓の音や三線の音、そして歌声や「イーヤーサッサ」の掛け声など……。“冬の風”は、沖縄とはいえ、寒さを運んでくる。これが結構身に凍みるのだ。私も実際住んでみて実感したのだが、夏の脳が溶けてしまいそうな暑さには慣れてきたものの、冬を迎えるたびに、だんだんと寒さが身に凍まるようになつた。そう、気温は高くても島を

Series 1  
地域の目

「沖縄の風がはこんでくるもの...」

抜ける風が冷たいのである。そして沖縄名物“台風”は、風がいろいろと声を変えて楽しんでいるかのようにな、島中を駆け抜けしていく。また、風は生活面でも大いに役立つていい。毎日の洗濯であるが、風のお陰でよく乾く。夏の太陽が照りつけるなか木陰に身を寄せると、なんとも言えぬ心地よい風を運んできてくれる。心の底から「涼しい」と、思われるてくれる、本当に有り難い風なのである。さらに、毎日の生活の中で、役場、公民館にある広報塔からのお知らせも、風に乗せて届けてくれる。役場からは大切なお知らせ、公民館からは近くの漁港から魚の販売車が来たとの知らせ……。とつても生活と密着している風なのである。

そう言えば、私達には昔から使つてゐる言葉がある。「風に誘われて……」、「風の便りに……」、「風の噂で……」とか。考えてみれば、風はいろいろなものを運んできてくれるのだ。私は、本当に沖縄の風が好きだ。今でもちよつと休憩と思う時は、外に出て風に吹かれてみる。つとも気持ちが落ち着くのだ。そんな沖縄の風も年に数回ではあるが、顔を見せてくれない日がある。いわゆる無風状態。なんとも淋しく

ばつい先日も、工事中に不発弾が爆発して、若者が負傷する事故があつたばかりだ。私は風に教えられたような気がする。この沖縄が今もなお抱えている問題があることを……。沖縄で“生きる”ことは、もつと沖縄を“知ること”なのだと……。きっとこれからも私に、いろんな思いを乗せて、心の中に何かを運んできてくれるのであるう、島を駆け抜ける“風”が……。

抜ける風が冷たいのである。そして沖縄名物“台風”は、風がいろいろと声を変えて楽しんでいるかのよう、島中を駆け抜けていく。また、風は生活面でも大いに役立つている。毎日の洗濯であるが、風のお陰でよく乾く。夏の太陽が照りつけるなか木陰に身を寄せると、なんとも言えぬ心地よい風を運んできてくれる。心の底から「涼しい」と、思われてくれる、本当に有り難い風なのである。さらに、毎日の生活の中で、役場、公民館にある広報塔からお知らせも、風に乗せて届けてくれる。役場からは大切なお知らせ、公民館からは近くの漁港から魚の販売車が来たとの知らせ……。とっても生活

心が弾まない。こんな日は気持ちも晴れないものである、不思議なくらいに……。しかし、また風が島を駆け抜けてくれば、私の気持ちもすぐに晴れる。やっぱり風は私の友達なのかも知れない。

実は、この原稿を書いている時に、風が私にニュースを運んできた。私にとって、自分が生きているこの島が過去に味わった悲惨な戦争、その爪痕とも言える知らせだった。それは役場からのもので、「本日、午前9時より不発弾の処理を行うので、海岸近くに立ち寄らぬこと」という内容であった。初めは耳を疑つたが、2回目のアナウンスで現実に、ことだと胸に止めた。そう言え

心が弾まない。こんな日は気持ちも晴れないのである、不思議なくらいに……。しかし、また風が島を駆け抜けてくれば、私の気持ちもすぐには晴れる。やっぱり風は私の友達なのかもしない。